

# 大津の農業、 こんなことします (具体的取り組み)

1

## 「人をつくり、仲間をつくる」

### — 育てよう！次代を拓く担い手の輪

大津市の農業を支える上で最も重要なのは毎日畑をたがやす生産者のみなさんです。そこで、本ビジョンでは「人づくり」に重点をおいた取り組みを行います。

こうした取り組みを通じて、市場への出荷を主とする大～中規模の生産者(販売生産者)と自家消費を中心とする生産者(自給的生产者)がともに活躍できる、新しい農業のありかたを目指します。

#### 基本施策



- ①. 「販売生産者」を育て、「自給的生产者」を守ります
- ②. 女性生産者の活躍の場を増やします
- ③. 定年帰農者や若手生産者を積極的にサポートします
- ④. 生産技術や経営技術をさらに高めます
- ⑤. 生産者同士の交流を深め、仲間を増やします
- ⑥. 次世代の生産者を集め、育てます

#### 大津市のチャレンジ！

- 市内の各地域で農業を支える生産者を対象に、「農業経営改善計画」の作成ならびに認定をサポートします！

#### 【認定農業者の数】

現 状	目 標		
2016年 11月末現在 27名	2021年 (1期) 31名	2025年 (2期) 35名	2029年 (3期) 39名

#### 市民のみなさんも参加しよう！



- 市内の生産者が直接指導する短期就農体験※に参加しよう！
- 市内で農作業のアルバイトにチャレンジしよう！

※今後開催に向けて検討の予定です。

■ 具体的取り組み（これらの取り組みは関係機関と協議の上、優先順位をつけて取り組みます。）

基本施策	具体的取り組み	実施期間			備考
		第1期	第2期	第3期	
1.「販売生産者」を育て、「自給的生产者」を守ります	①人・農地プランや地域資源保全管理構想、集落戦略などの作成の過程で、地域内で話し合いを進め、将来の担い手になる人材を掘り起こします。	→	→	→	
	②人・農地プランや地域資源保全管理構想、集落戦略などの作成の過程で、地域内で話し合いを進め、地域が担い手をサポートする仕組みづくりを支援します。	→	→	→	
	③今後の地域を支えていく生産者を対象に、「農業経営改善計画」の作成ならびに認定をサポートします。	→	→	→	
	④市内の集落営農ならびにその地域を対象に、さらに組織化ならびに法人化に向けた話し合いを進めます。	→	→	→	
	⑤集落営農法人同士のネットワーク化を進め、農機具や人手の協力体制を構築し、農業経営の効率化や安定化を進めます。	→	→	→	
	⑥集落営農法人の経営の多角化を進め、収益性の向上につなげます。		→	→	新設
	⑦集落営農法人と認定農業者との連携を進め、農業経営のさらなる効率化や安定化を進めます。		→	→	新設
	⑧集落営農法人の広域化（合併・統合など）の先進事例を集め、その取り組みについて情報発信します。		→	→	新設
	⑨集落営農法人の取り組みに対してコーディネーターとして支援する体制を整備します。	→	→	→	
	⑩市内の農業者の取り組みや市内で就農するためのステップをウェブサイトなどを通じて発信します。	→	→	→	
	⑪滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、就農相談窓口を設置して、周知をはかります。	→	→	→	
2.女性生産者の活躍の場を増やします	①味噌づくり体験会や米粉利用キャンペーンなど、食育の場を市内に増やします。	→	→	→	
	②「人・農地プラン」の作成にあたり女性生産者の参加をうながします。	→	→	→	
	③「家族経営協定」制度について周知をはかり、協定を結ぶサポートをします。	→	→	→	
	④企画立案や起業に関する研修会などを開催し、女性の視点を活かした6次産業化を支援します。	→	→	→	
3.定年帰農者や若手生産者を積極的にサポートします	①市内の農業者の取り組みや市内で就農するためのステップをウェブサイトなどを通じて発信します。	→	→	→	再掲
	②滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、就農相談窓口を設置して、周知をはかります。	→	→	→	再掲
	③新規就農者が農業をスタートするために必要となる就農計画策定のサポートを行います。	→	→	→	
	④滋賀県農林漁業担い手育成基金と連携し、新規就農者に対して、市内農地の紹介をします。	→	→	→	
	⑤若手生産者に相談相手となるような先輩農業者を紹介します。		→	→	
	⑥滋賀県農業大学校への就学や、県農業技術振興センターの仲介を通じて、技術向上をサポートします。	→	→	→	
	⑦より低コストな就農のために、中古の農業用機械や共同利用などの導入を積極的にサポートします。	→	→	→	
4.生産技術や経営技術をさらに高めます	①勉強会の開催や県農業技術振興センターなどの指導をより活発に行い、大津市産農産物の品質向上を進めます。	→	→	→	
	②農作業時の事故ゼロを目指して、安全意識・技術をさらに高めます。	→	→	→	
	③市内直売所やイベントなどによる消費者との交流を通じて、大津市産農産物の評価を把握し、次の生産計画につなげます。	→	→	→	
	④簿記や税務についての共同勉強会を開催し、「青色申告」の普及を徹底します。	→	→	→	
5.生産者同士の交流を深め、仲間を増やします	①集落営農法人同士のネットワーク化を進め、農機具や人手の協力体制を構築し、農業経営の効率化や安定化を進めます。	→	→	→	再掲
	②新規就農者や若手生産者を対象とした活動発表会を定期的に行い、情報の共有を進めます。	→	→	→	
	③イベントや研修会などを通じて、女性生産者同士のネットワーク化をはかり、6次産業化などにチャレンジします。	→	→	→	
	④特に新規就農者を中心として、SNSなどによる生産者同士のネットワーク化をはかり、農業が続けられる環境をつくります。	→	→	→	
6.次世代の生産者を集め、育てます	①市内認定農業者などの指導が受けられる市民向けの短期就農体験を行い、農業の関係人口の増加に取り組みます。		→	→	
	②農業を支援したい大学生やシルバー人材などと生産者をつなぐ仕組みをつくります。		→	→	
	③「障害者雇用のマッチング制度」などの取り組みを周知します。		→	→	
	④棚田ボランティア活動や棚田オーナー制度を活用し、農業の関係人口の増加に取り組みます。	→	→	→	新設
	⑤「農福連携」について、市内の事例を収集し、その取り組みについて情報発信します。		→	→	新設
	⑥福祉事業所などと農家・農地所有者とのマッチング手法について検討します。		→	→	新設